

スペシャルすまいる

No. 47
2016 January
NIKKO City Council of
Social Welfare

Public Relations Magazine "SPECIAL SMILE" of Nikko-Shakyo



日光けっこうフェスティバル

10月1日から全国で始まった赤い羽根共同募金運動。日光市でも戸別募金・法人募金・学校募金・イベント募金などさまざまな募金活動を行っています。みなさま、「ふだんのくらしのしあわせ=福祉」を応援する共同募金にご協力ありがとうございました。



日光市社会福祉協議会
イメージキャラクター「ニッキー」



日光市社会福祉協議会
合併10周年記念事業
日光“しゃきょう”祭



日光霧降アイスアリーナ

CONTENTS

- 新年のごあいさつ 2ページ
- 寄附・社協会員会費募集のお礼と報告 3ページ
- 日光市災害ボランティアセンター活動報告 4～5ページ
- 日光“しゃきょう”祭 6～7ページ
- ボランティア団体活動紹介 8ページ
- わたしの地域のふくし活動 8ページ



この広報紙の発行にはみなさまからご協力いただきました赤い羽根共同募金の配分金が使用されています。



2016年 新年のごあいさつ

誰もが安心して暮らすことのできる
福祉のまちづくりを目指して

日光市社会福祉協議会 会長 齋藤 文夫



新年、明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、希望に輝く新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

日頃より日光市社会福祉協議会に対しまして、多大なるご支援、ご協力をいただき謹んで感謝申し上げます。

早いもので本会も設立から10年が経過しようとしています。合併後多くの面で合理化や効率化が求められた反面、福祉活動については距離的にも意識的にも、より市民に身近で、よりきめ細かな支援へと拡大してきております。

このような中、本会では市内9つの地区社会福祉協議会（地区社協）を中心とした小地域福祉活動の実施と併せ、地区を担当する専門職員（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）の配置により、地域の福祉課題を地域住民が主体となり解決していけるような仕組みづくりのため、いろいろな場面でお手伝いをさせていただいております。

また近年では、福島県相馬市をはじめ新潟県妙高市、宮城県東松島市との「災害時における相互支援協定」や、まちづくり・人づくりといった人材育成や研究強化をねらいとした宇都宮大学との「包括連携協定」締結など、本会の総合的な組織力を高めるため福祉系業種はもとより、他業種との積極的な連携を進めており、今後においても更に拡充したいと考えております。

さて、今年の活動を振り返りますと、市民のニーズに柔軟かつ迅速に対応すべく重点目標に掲げてきた組織機構（事務局体制）改革の実施や、本会が行う福祉活動の指針でもある「地域福祉活動計画」に基づく諸事業の推進、また市民の皆様の参画をいただきながら進めた同計画の第2期計画策定作業、新たな福祉活動財源確保のためのプロジェクトなど、目標達成に向けた取り組みを着実に進めて参りました。

また、去年は本来望まれない活動を経験した年でもありました。9月9日に発生した関東・東北豪雨災害への対応のため開設いたしました「日光市災害ボランティアセンター」の運営が強く心に残っております。本市においても土砂流出や河川氾濫による建物、道路、農林関連など甚大な被害があり、発災直後から市民の皆様はじめ、全国の多くの方々よりボランティア活動、物資提供等暖かいご支援をいただいたところです。あらためまして皆様方に厚く御礼申し上げます。

被害状況の確認から始まり、被災者のニーズ把握、ボランティアの受け入れ・派遣調整、日光市災害対策本部との連携など、「災害ボランティアセンター」運営は初めての経験であり、約1ヶ月間、市内外からの900人を超えるボランティア受け入れに際し、具体的な業務分担や、作業過程、事務処理、職員の勤務体制など数々の反省点は残りましたが、本会の災害時における役割の重要性を再認識させられた業務でもありました。

近年は全国各地で地震や集中豪雨などが頻発し、突然の自然災害に備えた取り組みが喫緊の課題となってきたことから、本会内部においても対応シミュレーションや研修の強化、また地域に対しては、日頃からの近隣相互見守りなど市民の主体的活動定着への継続的な働きかけの重要性を強く感じております。

今後においても、社会情勢や市民のニーズに即した適切な取り組みを推進するとともに、市民がボランティア活動などを通じ、福祉推進の一翼を担いながら、地域の諸課題解決への「新たな支えあい」の創造と、豊かな福祉コミュニティづくりができるよう、日光市と歩調を合わせながら、きめ細かな支援を継続していく所存でございますので、皆様方のより一層のお力添えをお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとってすばらしい年になりますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

寄附報告 平成 27 年 9 月 1 日～平成 27 年 11 月 30 日

(一般寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	金額(円)
本所	真如苑	200,000
本所	公益社団法人日本青年会議所 北陸信越地区 新潟ブロック協議会	20,000
本所	新谷 浩治	30,000
本所	社会福祉法人片品村社会福祉協議会 会長・片品村議会議員 星野千里	10,000
本所	星野ヨシイ	100,000
本所	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会	200,000
本所	株日光の庄	22,349
今市	日光市グラウンドゴルフ協会	31,255
今市	今市公民館「いきいき教室」	16,780
今市	福島一兵歌謡教室	36,588
今市	福島一兵歌謡教室	59,960

取扱	寄附者名	金額(円)
今市	今市陶友会	30,000
今市	今市公民館「ふれあい教室」	60,920
今市	森友上五分区自治会	11,671
今市	小野ヨシエ	10,000
日光	日光市商店連合会	10,000

(香典返し)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	金額(円)
藤原	大島 好一	50,000

(物品寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	品名
本所	町田 正明	球根
今市	堀田 隆史	オムツ等

寄附報告 平成 27 年 3 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日<記載漏れ>

◆お詫びと訂正◆「スペシャルすまいる No.45号」にて記載された「寄附報告」(6p)において下記のとおり記載漏れがございました。このような不手際がございましたことにつき、深くお詫び申し上げます

(一般寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	金額(円)
本所	小野 ヨシエ	10,000
足尾	腰塚 肇	20,000
足尾	波田野 英子	10,000

(香典返し)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	品名
藤原	福田 正則	50,000
藤原	福田 京子	100,000

社会福祉協議会会員会費募集結果のご報告



総額
13,733,724円

(平成 27 年 11 月末現在)

平成 27 年度の社会福祉協議会会費募集につきましては、多くの市民・事業者等の皆さまのご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この会費は、本会及び地区社協の活動を支える貴重な財源として、各種事業や会の運営に活用させていただきます。

今後も、皆さまの参加を得て、「誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」を目指した組織・事業運営を進めてまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

日光市災害ボランティアセンター活動報告

豪雨災害発生！！

9月10日から11日に日光市内で多い地域では、600mmを超える雨が降りました。これは日光市で1年間に降る雨量の約3分の1が1度に降ったこととなります。

この記録的豪雨により、日光市内各地で甚大な災害が発生しました。

【通行止め】70箇所

【避難所開設】25施設

【建物被害】全壊：19軒／半壊：91軒／一部損壊：12軒

床上浸水：54軒／床下浸水：212軒

(平成27年11月30日：日光市発表)



災害ボランティアセンターとは？



①災害ボランティアセンターの役割

災害発生時のボランティア活動を効率よく推進するための役割を担います。

被災状況や被災者が求める支援などに関する情報を収集し、ボランティア（個人および団体）の受入調整、活動紹介を行います。

②災害ボランティアの主な活動内容

被災された方々の生活復旧・復興を目的に、ボランティアの手が必要な家屋の片付けや土砂の撤去作業など、被災されたことによる困りごとへの対応を行います。

③日光市における災害ボランティアセンターの概要

1) 災害ボランティアセンター設置の流れ

災害の規模、被災状況を受けて、日光市災害対策本部の要請により日光市社会福祉協議会が開設します。

2) こんな人たちで構成されています

日光市、日光市社会福祉協議会、日光青年会議所、日光市民活動支援センターにより構成される災害ボランティアセンター運営会議が中心となって「日光市災害ボランティアセンター」を運営します。



日光市災害ボランティアセンターの開設運営

日光市災害ボランティアセンターは、平成27年9月13日から10月4日までの期間、日光市内で被災された方々の自宅の泥出しや片付けなどの災害復旧のための支援活動を行ってきました。

ボランティアの皆さんには、シルバーウィークを中心に、日光市内をはじめ、遠くは青森県、兵庫県、広島県など全国から述べ900人を超える方々に活動いただき、誠にありがとうございました。

また、センターの運営スタッフとして、災害相互支援協定を締結している、福島県相馬市社協、新潟県妙高市社協、宮城県東松島市社協や県内外から多くの社協職員の方々にご協力いただきました。



日光市災害復興支援センターへ移行しました

平成27年10月5日からは、泥出しなどの災害復旧活動が落ち着いたことから、災害ボランティアセンターから「日光市災害復興支援センター」へ移行しました。

日光市災害復興支援センターでは、

- 総合相談窓口の設置
- 被災された方が元の暮らしに戻るための支援活動
- 泥出しなど災害復旧活動への継続支援

などに取り組んでいます。災害によるお困りごとなどありましたら、お気軽にご連絡ください。

日光市災害復興支援センター
(日光市社会福祉協議会内)
電話 0288 - 21 - 5577



ありがとうございました

日光市災害ボランティアセンター活動実績 (平成27年9月13日～10月4日)

- 延べ活動ボランティア数 … 913人
- 延べ活動件数 … 90件
- ボランティア派遣世帯 … 50世帯
- 主な活動内容 … 家の片付け、泥出しなど



日光 “しゃきょう” 祭

福祉活動発表会

「わたしの地域福祉活動、わたしたちの地域福祉活動」

佐野短期大学教授・山田 昇氏より「地域を見つめ・耕し・つなぎ・創造する『地域福祉』を！」と題して講話をいただいた後、日光市で活動するボランティア団体等がそれぞれの活動内容について発表しました。その後、山田先生のコーディネートのもと、発表した4団体でディスカッションを行い、今後の日光市における“地域福祉”を考えました。



“五縁”物産展

福島県相馬市社会福祉協議会と新潟県妙高市社会福祉協議会、宮城県東松島市社会福祉協議会、スマイル日光プロジェクト、そして、日光市社会福祉協議会の“五つの縁”が協力して物産展を開催！

日光の産物はもちろん、福島の海で獲れた海鮮物や新潟新米「こしひかり」、東松島市名物の焼き海苔など、それぞれの地元の特産品が店頭に並びました。



ニコニコ高齢者体験・ドキドキ健康測定

～ニッキーと一緒に体験しよう！～

屋外広場では、高齢者擬似体験セットを装着して車イスや歩行器の体験をしたり、輪投げゲームで点数を競ったりしながら、楽しく高齢者体験をしました。また、屋内ホールでは、保健師による健康指導のコーナーを設け、骨密度と肺年齢の測定を行いました。皆さん、意外な測定結果にドキドキしていた様子！？



モザイクアート

共に歩んできた地域の皆様との10年分の活動写真約9000枚を使い、モザイクアートを作成！大きく浮かび上がったニッキーの絵を前に、来場された方々からは驚きや感動の声があがっていました。



赤い羽根共同募金

会場にて、“赤い羽根共同募金”へのご協力を呼びかけましたところ、総額17,920円の浄財をお寄せいただきました。今回の募金は主に県内及び日光市内の地域福祉の向上に役立てられます。

皆様のご協力、誠にありがとうございました。



これからも、日光市社会福祉協議会を
よろしくお願いします。

(第10回日光市社会福祉大会) 開催

住民の皆様と歩み続けて、10周年一。

平成18年3月20日、日光市と同日に誕生した「日光市社会福祉協議会」は、今年度で合併10周年を迎えます。この節目にあたり、11月14日(土)、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣にて、記念イベント「日光“しゃきょう”祭」を開催しました。当日は雨天にもかかわらず、多くの方に来場いただき、盛会のうちに終了することができました。



第10回日光市社会福祉大会

この大会では、私たちが住みなれた地域で共に安心して暮らしていくために、積極的な取り組みを誓うとともに、社会福祉の推進に功績のあった方々への表彰を行いました。



日光市社会福祉協議会会長表彰・感謝(敬称略)

【表彰】

■社会福祉施設・団体従事者

杉山 和恵
大貫 冷子
山口 容子
谷津 貴之
杉本 香代子
手塚 久規
山本 勉
吉田 久美子
太田 澄江
田野井 孝子
奥村 みどり
見目 悦子
渡辺 康成
野澤 加代子

■ボランティア・団体等

所 文子
齋藤 宮子
城戸口 隆康

【感謝】

■自治会長

狐塚 元
田中 政則
手塚 弘至
北村 弘
星野 典雄
伊澤 正男
大門 正夫
叶賀 芳明
鷹鷲 英雄
福田 進
渡辺 新太郎
加藤 勝己
手塚 貞男
中村 貞夫
山本 勤
山口 登
柏木 金造
根岸 保夫
大島 一比古
鷹簀 均
狐塚 正廣
高橋 英男
田井 哲
足助 英則
五十嵐 皖
小野 光義
阿久津 道夫
川村 孝一
高橋 満

小池 悦男

繪面 信

手塚 達雄

北山 一彦

高畑 博

門馬 信男

大橋 功雄

窪見 一雄

塚原 誠二

関根 良行

中野 至

内藤 恵雄

佐藤 晃

片桐 虎男

黒田 保彦

大類 良子

■民生委員・児童委員

主任児童委員

星野 典子

■役員・評議員

君島 一

柳田 友一

阿久津 靖弘

高橋 國男

判 照雄

■寄附者

堀川 彰之

〈標語〉

・小学生の部

ぼくのかた

たよりないけど

つかってよ

大沢小学校五年 溝井 康平

・中学生の部

人助け

心にしみる

「ありがとう」

湯西川中学校一年 山口 瑠菜

・一般の部

その笑顔

みんなにとって

宝物

今市工業高等学校一年 豊田 樹

〈ポスター〉



豊岡中学校一年 星野 颯杜



の標語・ポスター
コンクール最優秀作品

日光市福祉ボランティア団体協議会の紹介

日光市では、日光市内のボランティア団体が集まり、団体同士の連携と親睦をはかり、地域福祉の発展に協力することやネットワークづくりを目的として、『日光市福祉ボランティア団体協議会』を組織し、活動しています。
今回から2回シリーズで、『日光市福祉ボランティア団体協議会』加入団体の紹介をしていきます。



傾聴ボランティア“ありのまま”グループ

平成20年設立の傾聴ボランティアグループ。日光市内施設や、個人宅での傾聴ボランティア活動のほか、学習会を定期的に行うなど傾聴スキルの向上に努めています。また、人材育成のための研修会を行うなど、精力的な活動を展開しています。

フレンドイボランティアグループ

平成13年設立のボランティアグループ。日光市内（日光地区）の清掃活動を中心に活動を行っています。また、バザーに出店した収益金やペットボトルキャップ等を施設へ寄付するなど多方面で活躍しているボランティアグループです。

認知症を考える会“えがお”

平成25年設立のボランティアグループ。日光市内施設での生け花活動やあそびりテーションを行っています。また、認知症に関する事例学習や施設見学会を行うなど、認知症への理解を深める活動も行っています。みんなが“えがお”で穏やかに暮らせる社会を目指し活動しているグループです。

わたしの地域のふくし活動

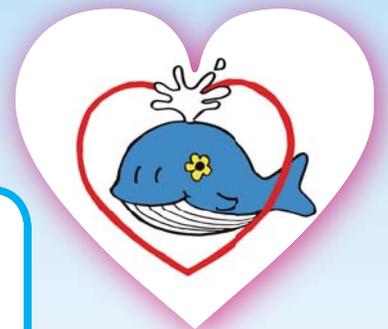
いつまでも“安心して”暮らせるまちを目指して

自分達で、できる事から 久次良町自治会「ホットくじら隊」の取り組み

住み慣れた場所で、いつまでも、安心して暮らしたい。これは、誰もが持つ“あたりまえ”の願いだと思います。でも年を重ねると、認知症や孤立など、不安は尽きません。

そんな中、久次良町自治会では「ホットくじら隊」を立ち上げ、見守り活動を行っています。

- 行っていることは、住む者同士のさりげない”見守り活動です。
「組」ごとに一名ずつ隊員がいて、いつもと違う、何かおかしいと感じる方がいたら、自治会役員、民生児童委員に、とりあえず声をかけることからです。
- 行っている人は、身近に住む“お隣さん”です。
隊員は、専門的な資格を持たない、守秘義務厳守の女性達です。身近な“お隣さん”が、優しく見守っています。



「ホットくじら隊」
シンボルマーク

久次良町自治会は、今後も「ふだんのくらしのしあわせ」(ふくし)を目標に、誰にでもできる見守りや支え合いを行っています。

お知らせ

社会福祉協議会では、この社協情報紙の表紙を飾る『スペシャルすまいる』のタイトルにふさわしい「すてきな笑顔」の写真を募集しています。
※応募先及び詳しくは、法人経営チーム TEL 21-2759 まで。

スペシャルすまいる

2015.12.25 発行

■編集・発行/社会福祉法人日光市社会福祉協議会 〒321-1261 栃木県日光市今市511-1 (日光市役所春日町庁舎内)
TEL 0288-21-2759 / FAX 0288-21-3110 ホームページアドレス <http://www.shakyo-nikko.or.jp/> 印刷：(有)高橋平版社